

のむら復興まちづくりデザインワークショップ実施要領

1 目的

西予市復興まちづくり計画に基づき、安心・安全のまちづくりと住まいの再建、商店街を起点とした地域活性化や公共施設等の配置を含め、地域の発展につながる復興まちづくりのあり方について、「のむら復興まちづくり計画(令和2年3月)」として策定した。本計画の実現のために、住民と行政、大学が共にアイデアを出し合う場(ワークショップ)を設け、誰が、いつ、どのように進めていくのか、地域に住む一人ひとりが、それぞれの立場で出来ることを模索する。

2 名称 のむら復興まちづくりデザインワークショップ

3 主催 西予市 (協力) 愛媛大学 東京大学復興デザイン研究体

4 参加者

- (1) 野村地区内自治会及び社会教育団体等の公的団体代表者を案内する。
- (2) 市ホームページおよび防災無線を通じて、西予市内在住者から募集し、復興支援課(室)へ申込書を提出する。応募者多数の場合は、抽選とする。

5 運営方針

- (1) 参加者の報酬は無報酬とする。
- (2) 西予市復興まちづくり計画、のむら復興まちづくり計画に基づき、地域の課題や将来像、地域構想について意見交換、議論を行い、その結果をまとめる。
- (3) 結果は西予市ホームページにて、随時、公開する。
- (4) 開催期間中において、常時、参加申込を受け付ける。

6 実施時期と回数

令和2年7月から計6回のワークショップを開催する。時期、回数については、新型コロナウイルス感染症による影響やワークショップでの議論の進捗状況を考慮し検討するものとする。

7 内容

- 【第1回】 河川沿い整備基本計画案の確認と整備後の利活用・管理運営について

【第2回目以降】

野村高校からの提案を実現化していくこと、また、その実現に向けた取組みを地域が支えることを通して、のむら復興まちづくり計画に掲げる目標の具現化を目指す。

- ・若者チャレンジの支援
- ・地域ブランドの創出
- ・“のむら”ならではの魅力を活かし来訪者を呼び込む 等

※野村高等学校においては、総合的な探求の時間(旧：総合的な学習の時間)において復興まちづくりへ学校として取り組むよう計画中である。

8 ワークショップの具体的な方法について

ワークショップでは、進行・調整役(ファシリテーター)のもと、少人数のグループに分かれて、それぞれ参加者が意見を出し合いながら、全体の意見となるようまとめていくもの。一人ひとりの意見をふせんに書き出し、大きな紙に貼りながら、関係する内容をグループ化し、整理していく。また、出された意見に対しては、その背景や原因を考え、課題を抽出する。最後にグループごとにまとめた意見を発表することで、全体で意見の共有を図る。